

「通信博物館の100年」展 博物館の「お宝」

今回は、電気通信関係に関する当館の「お宝」展示品（重要文化財以外）を紹介します。

なぜ当館が電気通信関係の「お宝」を所蔵しているかと言いますと、明治18年逓信省新設によって通信・交通・運輸の全般を管掌したことに遡ります。逓信省は、明治3年の工部省時代のものを引継ぎ、その後、博物館創設に伴い、当館が保存・展示するようになりました。昭和27年日本電信電話公社が設立されるまでの電気・電信電話・無線に関する資料を収集してきました。

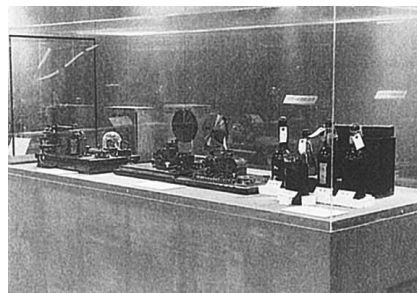
その主な所蔵品としては、次のようなものがあります。

電気関係コーナー 佐久間象山自製の絹巻銅線・馬蹄形磁石・電気治療器や徳川斉昭が電気メッキに使用した電気薬品。シーボルトが所有していた電気治療器など幕末の日本の電気研究品があります。本邦初公開のものばかりです。

通信関係コーナー オーストリア国献上の「エンボッサー・モールス電信機」（日本初のモールス機実用）、明治5年鉄道開通時に使用の「単針電信機」、日本最古のファクシミリで「アーリンコート生写電信機」、工部省初製作の「国産1号電話機」など、最初に使用された通信機器ばかりです。

無線通信コーナー 無線の研究は、明治28年（1895）マルコーニが最初となりますが、日本も明治29年から逓信省で研究が行われました。その研究品であるマルコーニ波長計や電気試験所の発明品TYK無線電話機などがあります。

これらの機器は、当時の歴史や技術を知る上にも、大変貴重な「お宝」と言えます。また、当所客員研究官若井登氏と通信総合研究所の小室純一氏、三木千紘氏と当館の共同研究によって、部品の欠損などを修復し、当時を再現する機器として甦りつつあります。



通信関係コーナー

学芸員雑記帳 100年目を迎える逓信省発行「記念絵葉書」

100年を迎えるものとして、記念絵葉書の発行があります。

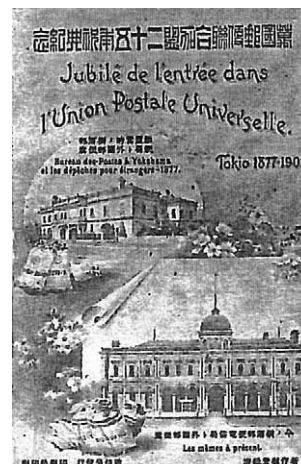
この絵葉書は、万国郵便連合（UPU）加盟25年の記念式典のために、初めて逓信省が「万国郵便連合加盟25年記念郵便絵はがき」を発行しました。明治35年6月18日から6種1組、金5銭で発売しましたが、すぐ売り切れとなりました。

刷色は1色刷りですが、当時としては大変目新しい網目写真製版法を採用しました。

また、当日は記念局を特設して、初めての特殊通信日附印を使用しました。（井上恵子）



駅通局とスイスベルンの事務局



新旧の横浜郵便局と郵袋